

平成 23 年度第 1 回千葉市病院運営委員会議事録

1 日 時 平成 23 年 7 月 4 日（月）午後 7 時から午後 8 時 30 分まで

2 場 所 千葉市総合保健医療センター 5 階大会議室

3 出席者

(1) 委 員 入江康文委員、中野義澄委員、浅井隆二委員、高橋敬一委員、柏戸正英委員、神田敬委員、藤本俊男委員、古山陽一委員、山木まさ委員、宮崎勝委員、小林繁樹委員

(2) 事務局 守屋病院事業管理者

〔病院局経営管理部〕

松山経営管理部長、肥川経営企画課長、豊田管理課長、伊藤総括主幹、長峯管理課長補佐

〔病院局市立青葉病院〕

高橋院長、寺野副院長、安見薬剤部長、大塚事務長、神崎医事室長
〔病院局市立海浜病院〕

太枝院長、宇津木副院長、金澤診療局長、志村薬剤部長、今野看護部長、飯田事務長、加藤医事室長

〔保健福祉局健康部〕

山口健康部長、大木健康企画課長

4 議 題

(1) 副委員長の選出

(2) 平成 22 年度病院事業報告について

(3) 「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

(4) 平成 23 年度病院事業予算について

(5) その他

5 議事の概要

(1) 副委員長の選出について

委員の互選によって、副委員長は宮崎委員となった。

(2) 平成 22 年度病院事業報告について

事務局から、両市立病院の患者数、地域連携室業務、処方せんの発行状況、平成 22 年度決算収支見込等について説明した。

(3) 「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

事務局から、収支計画、主要指標及び取組事項の進捗について説明した。

(4) 平成 23 年度病院事業予算について

事務局から、両市立病院の業務の予定量、収益的収支、資本的収支、両病院の予算内

訳、平成23年度予定貸借対照表等について説明した。

(5) その他

事務局から、現在千葉市病院改革プランの見直し作業を行っており、今年度中にもう一度病院運営委員会を開催し、新しいプランの内容等について審議してもらいたいと説明した。

6 会議経過

議題(1) 委員長及び副委員長の選出について

委員から、前回の委員会では、副委員長は千葉大学医学部附属病院の河野委員であったので、副委員長は宮崎委員にお願いしてほしいという意見があり、副委員長は宮崎委員となった。

<宮崎副委員長挨拶>

委員になったばかりで副委員長になるのは荷が重いが、千葉大学は両市立病院と関わっている部分もあるので、入江委員長のもと、千葉市の両市立病院の運営に貢献できるようにしたい。よろしくお願いします。

議題(2) 平成22年度病院事業報告について

【質疑応答】

<委員>

青葉病院の在宅支援病床の利用率が年々減っているのはなぜか。

<事務局>

青葉病院では、救急患者を積極的に受け入れることとしているが、登録医があまり多くないこと、登録患者が認知症患者中心となっていることなどから、在宅支援病床の利用が減っていると考えられる。それは、在宅支援病床は内科の急性期病床に配置しており、認知症を有する高齢者の受け入れは、病棟の負担も大きいことから、登録医の方々にお願いして、そのような患者の登録を解除していただいていることが一因と考えられる。

<委員>

青葉病院以外の在宅の受け皿が整ってきているのも一因ではないか。

海浜病院と比べて青葉病院は病床数が多いのに、海浜病院のセミオープンシステム紹介患者数はなぜ青葉病院の3倍位多くなっているのか。

<事務局>

青葉病院の実績は、登録医からの紹介のみであり、そもそも登録医の数が海浜病院に比べて少ないのも一つの要因である。

<委員>

青葉病院周辺の医師会員の登録が少ないということであれば、医師会としても反省したい。

<事務局>

海浜病院では、基本的には医師会を通して登録しているが、登録医の数は頭打ちになっている。しかし、海浜病院では登録医からの紹介だけでなく、近隣の地区の非登録医からの紹介が多い。今後は地域医療連携を強化して、紹介率を上げていきたい。

<委員>

セミオープンの導入時は盛り上がっていたが、最近はなかなか盛り上がりには欠けており、医師会会員の登録医が少ないのも事実である。これについては、我々の方でももっと協力していきたいと考えている。

<委員>

平成23年度の組織改正により地域連携室を正式に組織として位置づけているが、MSW（Medical Social Worker）の身分はどうなっているのか。

<事務局>

常勤職員で対応している。

<委員>

千葉県救急医療センターでは、MSWの常勤化はできていなく、嘱託職員という身分である。MSWは病院経営の上でも重要であり、常勤化が妥当であろう。

<事務局>

MSWの業務の重要性を認識しており、育成に力を入れていきたいと考えている。

<委員>

MSWは、長く優秀な方に働いてもらう必要があり、長期間の育成が重要である。嘱託職員では問題があるだろう。常勤として長期的に育成し、さらに人数を増やす必要があるだろう。

<委員>

お互いのMSWが知り合いだと話がスムーズになるだろうし、MSWの果たす役割は重要である。

<委員>

新しく地域連携室を位置づけたのは評価できるが、人員体制はどうなっているのか。

<事務局>

青葉病院では、看護師1名、心理療法士1名、保健師1名、MSW1名のほか非常勤職員を配置しており、実態的には従前と変わらない。主な仕事としては、退院調整などである。更なる強化が必要と考えているが、常勤の職員の増員は難しいものがあるので、仕事量等を見極めたうえで、計画を立てていきたい。

<委員>

是非強化してもらいたい。

<事務局>

海浜病院では、看護師長1名、MSW1名となっている。業務の重要性は増しており、非常勤を含めて4人から5人体制ぐらいで行きたい。

<事務局>

（病院事業管理者）就任後、いくつかの病院、特に回復期リハビリテーション病棟を有する病院の院長から、患者受入れの依頼があった。このように、他の医療機関との連携がますます重要になると考えている。

<委員>

入院患者だが、資料2には病床稼働率の記載がないのでイメージしにくい。平成22年度の病床稼働率はどうなっているのか。

<事務局>

海浜病院の病床稼働率は、69.7%である。昨年と比べて数%下がったが、診療報酬

改定及びハイケアユニット入院医療管理料の施設基準を取得したことにより、入院収益総額は増加した。しかし、それでも１０億円以上の繰入金が入っている。そこで、今後は、病床稼働率を７０％から７５％に上げていきたい。

<事務局>

青葉病院は、特に入院をセーブしているわけでないが、病床稼働率は全体で７０．９％、一般病床で７４．４％である。救急患者を獲得しようとしているが、病床稼働率は伸び悩んでいる状況である。

<委員>

在院日数の短縮は評価できるが、病床稼働率も向上すればさらに病院の経営が安定すると思う。

議題（３）「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

【質疑応答】

<委員>

千葉市薬剤師会として県の後発医薬品推進活動にも携わっているが、なかなか進んでいない。院外処方の後発医薬品については、把握しているのか。

<事務局>

調剤薬局では、後発医薬品を採用した場合に病院にもフィードバックしていただいているが、すべてを把握するには至っておらず、正確な数は把握していない。

<委員>

フィードバックの手続きが煩雑であることなどから、後発医薬品の普及及び実態の把握がなかなか進んでいない。今後は、お薬手帳への記載でも可とするなどフィードバックの方法を工夫する必要があるだろう。

<委員>

今回の病院運営委員会から資料がわかりやすくなった。例えば、Ｐ５の収益的収支の中の「医薬損益」の項目を設けたことで、評価がしやすくなった。

議題（４）平成２３年度病院事業予算について

【質疑応答】

<委員>

病院局のもとで、両病院の経営協力ができるようになったと考えられるが、診療材料や医療機器の購入に関して、共同購入などの新しい試みはあるか。

<事務局>

１０月を目途に、診療材料については、両病院のＳＰＤを統合し、両病院一括での契約を目指している。スケールメリットを活かして、購入価格を安くしたいと考えている。ただ、医療機器の共同購入については、今後の課題と考えている。

<委員>

スケールメリットを活かすことは重要である。

平成２２年度は予算を上回る成果を上げている。しかし、今年度（平成２３年度）は、診療報酬改定は行われないので、厳しい状況になると思うが期待している。

<委員>

千葉県は、増床計画を立てているが、それについてどのように考えているのか。

<事務局>

病床稼働率が70%前後であるので、現時点での増床は考えていない。近隣の医療機関で増床していただき、病病連携がより進むことを期待している。

議題（5）その他

<事務局>

現在、千葉市病院改革プランの見直し作業を行っており、今年度中にもう一度病院運営委員会を開催し、新しいプランの内容等について審議してもらいたいと考えている。

以 上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課

TEL 043-245-5744